

2025 年度（令和 7 年度）

# シラバス

柔道整復学科 昼間部

履正社国際医療スポーツ専門学校

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	2	単位
科目名	基礎演習B			講師名		辻井宏昭／木村優花		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	通年		分野		基礎分野	
講義目的	医療介護健康福祉関連などが実践及び研究発表されている現場を学習フィールドとして座学で学んだ理論を検証、研究する能力と、集団組織の中での自らの活躍の仕方を身に付ける							
到達目標	知的好奇心を高揚させ、研究心を身につける。チームアプローチ・チームビルディングを理解し、実践できる。							
テキスト	オリエンテーション時に配布							
参考文献								
評価基準	履修研究記録簿の作成提出 70% プレゼンテーション 10% ディスカッション 10% レポート課題 10%							
履修上の注意	授業時間以外の履修記録簿の作成研究やプレゼンテーションの予習復習の実践を前提に評価を行う							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	講義計画、ガイダンス、アイスブレイク	研修記録簿で振り返り
	到達目標		
2	講義内容	講義計画、ガイダンス、アイスブレイク	研修記録簿で振り返り
	到達目標		
3	講義内容	学習・発表計画作成(個人・グループ)	研修記録簿で振り返り
	到達目標		
4	講義内容	柔道整復学における古来の手技的理論を聴講 手技療法	研修記録簿で振り返り
	到達目標		
5	講義内容	公益社団法人 大阪府柔道整復師会学術大会を聴講	研修記録簿で振り返り
	到達目標		
6	講義内容	公益社団法人 大阪府柔道整復師会学術大会を聴講	研修記録簿で振り返り
	到達目標		
7	講義内容	医療介護福祉に関する講義を聴講 校内学術大会 特別講演	研修記録簿で振り返り
	到達目標		
8	講義内容	卒業研究発表の聴講 校内学術大会 学生発表	研修記録簿で振り返り
	到達目標		
9	講義内容	他資格との連携、職業理解 医療3学科学術大会	研修記録簿で振り返り
	到達目標		
10	講義内容	他資格との連携、職業理解 医療3学科学術大会	研修記録簿で振り返り
	到達目標		
11	講義内容	他学科チームアプローチとビルディング 体育祭	研修記録簿で振り返り
	到達目標		
12	講義内容	公益社団法人 日本柔道整復師会近畿学術大会を聴講	研修記録簿で振り返り
	到達目標		
13	講義内容	公益社団法人 日本柔道整復師会近畿学術大会を聴講	研修記録簿で振り返り
	到達目標		
14	講義内容	市民講座や大学医科教育等の聴講と実習	研修記録簿で振り返り
	到達目標		
15	講義内容	市民講座や大学医科教育等の聴講と実習	研修記録簿で振り返り
	到達目標		

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位 (15時間)
科目名	解剖学演習 (海外研修読替)			講師名		田中雅博		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	演習	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	基礎解剖学(道頓、骨、筋、血管、神経、内臓)を通じて命の尊厳と医学の真理、生命の倫理を学び、将来医療人として、得た知識を還元するための演習から総合的知識を得る。							
到達目標	人体名称を暗記するだけでなく、解剖演習により内部構造をイメージでき、その機能等を説明できる解剖学を通じて、命の尊厳と医学の真理、生命の倫理を理解する。							
テキスト	毎時限、資料を配布							
参考文献	解剖学 改訂版第2版 / 医歯薬出版株式会社 プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論運動器系)／医学書院							
評価基準	リポート課題 90% 授業貢献度 10%							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	ガイダンス	終了時に質疑応答
	到達目標		
2	講義内容	解剖学演習総論① 体表解剖、触診、骨学	終了時に質疑応答
	到達目標	体表解剖、触診を理解する	
3	講義内容	解剖学演習総論② 筋学、神経、内臓	終了時に質疑応答
	到達目標	筋肉、内臓の位置が説明できる	
4	講義内容	運動機能解剖学①	終了時に質疑応答
	到達目標	運動機能を理解する	
5	講義内容	運動機能解剖学②	終了時に質疑応答
	到達目標	運動機能を理解する	
6	講義内容	運動機能解剖学③	終了時に質疑応答
	到達目標	運動機能を理解する	
7	講義内容	医療倫理4原則	終了時に質疑応答
	到達目標	医療倫理の4原則を理解する	
8	講義内容	医療倫理と柔道整復師	終了時に質疑応答
	到達目標	柔道整復師としての倫理を理解する	
9	講義内容		
	到達目標		
10	講義内容		
	到達目標		
11	講義内容		
	到達目標		
12	講義内容		
	到達目標		
13	講義内容		
	到達目標		
14	講義内容		
	到達目標		
15	講義内容		
	到達目標		

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	実践生理学 I			講師名		萩山満		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	加齢による身体的変化とそれに伴う疾患などについて講義する。							
到達目標	高齢者の身体的・精神的特徴、加齢による変化について理解できるようにする。 1学年で学んだ生理学や解剖学等の理解を深めるようにする。							
テキスト								
参考文献								
評価基準	定期試験(中間と期末)100%(出席状況を加味する)							
履修上の注意	配布プリントに基づいて講義を進めるため、毎回必ず持参すること。							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	細胞・組織の加齢現象、循環器系の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	加齢に伴う身体的変化(細胞や組織)について理解する。	
2	講義内容	循環器系の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	血液について理解する。	
3	講義内容	循環器系の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	循環器系(心臓、血管)について理解する。	
4	講義内容	循環器系の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	循環器系(循環調節)について理解する。	
5	講義内容	呼吸器系の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	呼吸器系について理解する。	
6	講義内容	呼吸器系の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	呼吸器系について理解する。	
7	講義内容	加齢による消化器系の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	消化と吸収について理解する	
8	講義内容	消化器系の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	消化と吸収について理解する	
9	講義内容	消化器系の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	栄養と代謝について理解する	
10	講義内容	消化器系の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	栄養と代謝について理解する	
11	講義内容	体温及び泌尿器系の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	体温と尿生成と排泄について理解する	
12	講義内容	泌尿器系の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	尿生成と排泄について理解する	
13	講義内容	内分泌の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	内分泌について理解する	
14	講義内容	内分泌の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	内分泌について理解する	
15	講義内容	内分泌の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	内分泌について理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	実践生理学Ⅱ			講師名		萩山満		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	加齢に伴う変化、運動状態での生命現象を対象にそのメカニズムを講義する。							
到達目標	運動に伴う生理学的応答・適応に関する基礎的な知見を理解できるようにする。 1学年で学んだ生理学や解剖学等の理解を深めるようにする。							
テキスト								
参考文献								
評価基準	定期試験(中間と期末)100%(出席状況を加味する)							
履修上の注意	配布プリントに基づいて講義を進めるため、毎回必ず持参すること。							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	生殖器の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	性分化、生殖器の発達について理解する	
2	講義内容	生殖器の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	性分化、生殖器の発達について理解する	
3	講義内容	運動器(骨)の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	骨について理解する	
4	講義内容	運動器(骨)の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	骨について理解する	
5	講義内容	運動器(神経と筋肉)の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	神経について理解する	
6	講義内容	運動器(神経と筋肉)の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	神経について理解する	
7	講義内容	運動器(神経と筋肉)の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	筋肉について理解する	
8	講義内容	運動器(神経と筋肉)の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	筋肉について理解する	
9	講義内容	運動器(神経系)の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	反射、随意運動(錐体路と錐体外路)について理解する	
10	講義内容	運動器(神経系)の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	自律神経系について理解する	
11	講義内容	運動器(神経系)の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	高次機能について理解する	
12	講義内容	運動器(神経系)の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	高次機能障害について理解する	
13	講義内容	感覚の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	体性感覚について理解する	
14	講義内容	感覚の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	特殊感覚について理解する	
15	講義内容	感覚の変化	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	特殊感覚について理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	病理学概論Ⅰ			講師名		伊藤彰彦/萩山満		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	様々な病気の種類や成り立ちを大局的に理解する。							
到達目標	病気の原因や病態を正常と比較しながら概説できるようにする。 1学年で学んだ生理学や解剖学等の理解を深めるようにする。							
テキスト	はじめの一歩の病理学(羊土社)							
参考文献								
評価基準	定期試験 100%(出席状況を加味する)							
履修上の注意	配布プリントは毎回必ず持参すること。							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	病因①(内因)	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	素因(年齢・性別・人種)について理解する	
2	講義内容	病因②(外因)	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	化学的因子、中毒、公害、医原病について理解する	
3	講義内容	細胞障害・再生①	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	過形成、肥大、化生について理解する	
4	講義内容	細胞障害・再生②	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	変性、細胞死、修復について理解する	
5	講義内容	炎症①	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	炎症の原因、経過について理解する	
6	講義内容	炎症②	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	炎症の分類について理解する	
7	講義内容	免疫①	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	生体防御機構の全体像を理解する	
8	講義内容	免疫②	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	アレルギーについて理解する	
9	講義内容	膠原病①	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	関節リウマチについて理解する	
10	講義内容	膠原病②	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	全身性エリテマトーデスについて理解する	
11	講義内容	感染症①	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	感染症の成り立ち、外因性感染、内因性感染について理解する	
12	講義内容	感染症②	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	病原体と感染症(細菌)について理解する	
13	講義内容	感染症③	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	病原体と感染症(ウイルス)について理解する	
14	講義内容	感染症④	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	病原体と感染症(真菌)について理解する	
15	講義内容	感染症⑤	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	病原体と感染症(寄生虫、プリオン)について理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	病理学概論Ⅱ			講師名		伊藤彰彦/萩山満		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	後期		分野	専門基礎分野		
講義目的	様々な病気の種類や成り立ちを大局的に理解する。							
到達目標	病気の原因や病態を正常と比較しながら概説できるようにする。 1学年で学んだ生理学や解剖学等の理解を深めるようにする。							
テキスト	はじめの一歩の病理学(羊土社)							
参考文献								
評価基準	定期試験 100%(出席状況を加味する)							
履修上の注意	配布プリントは毎回必ず持参すること。							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	先天異常・遺伝性疾患①	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	胎児障害について理解する	
2	講義内容	先天異常・遺伝性疾患②	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	染色体異常について理解する	
3	講義内容	先天異常・遺伝性疾患③	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	遺伝性疾患について理解する	
4	講義内容	循環障害①	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	リンパ液の循環障害(浮腫)について理解する	
5	講義内容	循環障害②	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	血液の循環障害(充血、うっ血、出血、血栓症、塞栓症)について理解する	
6	講義内容	循環障害③	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	血液の循環障害(虚血、梗塞、高血圧、ショック、DIC)について理解する	
7	講義内容	代謝障害①	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	脂質代謝異常、糖質代謝異常を理解する	
8	講義内容	代謝障害②	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	生活習慣病について理解する	
9	講義内容	代謝障害③	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	タンパク質代謝障害、核酸代謝障害について理解する	
10	講義内容	腫瘍①	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	腫瘍の形態、分類について理解する	
11	講義内容	腫瘍②	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	悪性腫瘍の転移、進行度について理解する	
12	講義内容	腫瘍③	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	腫瘍の発生因子、腫瘍の診断と治療について理解する	
13	講義内容	運動器の病理①	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	骨腫瘍について理解する	
14	講義内容	運動器の病理②	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	代謝性骨疾患、感染性骨疾患、先天性骨系統疾患について理解する	
15	講義内容	運動器の病理③	講義中に質問し、答えさせる
	到達目標	神経変性疾患、末梢神経障害について理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	一般臨床医学Ⅰ			講師名		井上敬夫		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	疾患の概念から臨床症状までしっかりと理解させるとともに、国家試験に対応できるようにする。							
到達目標	解剖学や病理学など他の科目と関連づけが行えるようにする。							
テキスト	一般臨床医学・第3版(医歯薬出版)							
参考文献								
評価基準	試験 80% 小テスト 20%							
履修上の注意	授業時に配付される資料と教科書を毎度持参すること							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	呼吸器疾患(総論、肺感染症)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
2	講義内容	呼吸器疾患(呼吸器機能障害、肺循環障害、肺腫瘍)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
3	講義内容	呼吸器疾患(気管支、肺、胸郭系の変形及び形成障害)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
4	講義内容	循環器障害(総論、心臓の疾患)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
5	講義内容	循環器障害(不整脈各論、血圧異常、動脈疾患)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
6	講義内容	循環器障害(静脈疾患、レイノー症候群)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
7	講義内容	消化管疾患(総論、食道疾患、胃疾患)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
8	講義内容	消化管疾患(腸疾患)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
9	講義内容	肝胆膵疾患(総論、肝疾患)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
10	講義内容	肝胆膵疾患(胆道疾患、膵疾患、腹膜疾患)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
11	講義内容	代謝・栄養疾患(総論、糖代謝異常)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
12	講義内容	代謝・栄養疾患(脂質代謝異常、尿酸代謝異常など)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
13	講義内容	内分泌疾患(総論、下垂体疾患)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
14	講義内容	内分泌疾患(甲状腺疾患)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
15	講義内容	内分泌疾患(副腎疾患)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		



対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	一般臨床医学Ⅰ			講師名		高折 洋		
				実務経験		○		
実務内容	病院勤務(内科医)							
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	内科疾患を理解する上での基礎となる解剖学、生理学を復習しながら、個々の疾患に対する意識を病態生理とともに一つ一つ身につけ、基礎知識のみならず、実践的な臨床も問題にも対応できるようになる。医療現場の現実な話を通じ、少しでも現場の雰囲気を理解する。							
到達目標	まずは国家試験に重点を置き、試験に充分対応できる実力を身に着ける。医療に携わるうえで知っておくと望ましい最近のトピックスについての知識も身に着ける。							
テキスト	一般臨床医学(医歯薬出版株式会社)							
参考文献								
評価基準	定期試験 80% 小テスト 10% 授業態度 10%							
履修上の注意	毎回の小テストをその都度確実にこなし積み上げていく。							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	呼吸器疾患(解剖生理の復習・感染疾患)	次週に小テストで要点確認
	到達目標	小テスト内容が確実に答えられるようにする	
2	講義内容	呼吸器疾患(感染疾患・喘息)	同上
	到達目標	同上	
3	講義内容	呼吸器疾患(COPD・腫瘍)	同上
	到達目標	同上	
4	講義内容	呼吸器疾患(血栓塞栓症・気胸等)	同上
	到達目標	同上	
5	講義内容	循環器疾患(解剖生理・心不全)	同上
	到達目標	同上	
6	講義内容	循環器疾患(心電図・不整脈)	同上
	到達目標	同上	
7	講義内容	循環器疾患(虚血性心疾患)	同上
	到達目標	同上	
8	講義内容	循環器疾患(弁膜症・先天性疾患)	同上
	到達目標	同上	
9	講義内容	循環器疾患(高血圧・動静脈疾患)	同上
	到達目標	同上	
10	講義内容	消化管疾患(解剖生理・食道疾患・胃疾患)	同上
	到達目標	同上	
11	講義内容	消化管疾患(胃疾患。大腸疾患)	同上
	到達目標	同上	
12	講義内容	消化管疾患(大腸疾患)肝胆膵疾患(解剖生理)	同上
	到達目標	同上	
13	講義内容	肝胆膵疾患(肝疾患)	同上
	到達目標	同上	
14	講義内容	肝胆膵疾患(胆道・膵臓疾患)	練習問題
	到達目標	同上	
15	講義内容	代謝疾患(糖尿病)	同上
	到達目標	同上	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	一般臨床医学Ⅱ			講師名		井上敬夫		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	疾患の概念から臨床症状までしっかりと理解させるとともに、国家試験に対応できるようにする。							
到達目標	解剖学や病理学など他の科目と関連づけが行えるようにする。							
テキスト	一般臨床医学・第3版(医歯薬出版)							
参考文献								
評価基準	試験 80% 小テスト 20%							
履修上の注意	授業時に配付される資料と教科書を毎度持参すること							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	血液疾患(総論、貧血、白血病)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
2	講義内容	血液疾患(血友病、DIC、悪性リンパ腫、紫斑病など)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
3	講義内容	腎・尿路疾患(総論、腎不全、糸球体疾患、尿路感染症、前立腺疾患)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
4	講義内容	神経疾患(総論、髄膜炎、脳血管障害など)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
5	講義内容	神経疾患(認知症、パーキンソン病、腫瘍性疾患など)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
6	講義内容	神経疾患(筋疾患)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
7	講義内容	感染症(総論、消化器感染症)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
8	講義内容	感染症(性感染症、皮膚感染症)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
9	講義内容	リウマチ・膠原病・アレルギー(総論、関節リウマチ、SLEなど)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
10	講義内容	リウマチ・膠原病・アレルギー(強皮症、結節性多発動脈炎など)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
11	講義内容	リウマチ・膠原病・アレルギー(アレルギー分類、アレルギー性疾患)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
12	講義内容	一般臨床医学総論(医療面接、視診)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
13	講義内容	一般臨床医学総論(打診)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
14	講義内容	一般臨床医学総論(聴診)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		
15	講義内容	一般臨床医学総論(触診、生命兆候)	講義の最後に小テストを行う。
	到達目標		

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	一般臨床医学Ⅱ			講師名		高折 洋		
				実務経験		○		
実務内容	病院勤務(内科医)							
講義形態	講義	学期	後期		分野	専門基礎分野		
講義目的	内科疾患を理解する上での基礎となる解剖学、生理学を復習しながら、個々の疾患に対する意識を病態生理とともに一つ一つ身につけ、基礎知識のみならず、実践的な臨床も問題にも対応できるようになる。医療現場の現実の話を通じ、少しでも現場の雰囲気を理解する。							
到達目標	まずは国家試験に重点を置き、試験に充分対応できる実力を身に着ける。医療に携わるうえで知っておくと望ましい最近のトピックスについての知識も身に着ける。							
テキスト	一般臨床医学(医歯薬出版株式会社)							
参考文献								
評価基準	定期試験 80% 小テスト 10% 授業態度 10%							
履修上の注意	毎回の小テストをその都度確実にこなし積み上げていく。							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	代謝性疾患(糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症)	次週に小テスト施行し要点確認
	到達目標	小テスト内容が確実に答えられるようにする	
2	講義内容	内分泌疾患(解剖生理・間脳下垂体機能障害)	同上
	到達目標	同上	
3	講義内容	内分泌疾患(間脳下垂体機能障害・甲状腺疾患)	同上
	到達目標	同上	
4	講義内容	内分泌疾患(甲状腺・副甲状腺・副腎疾患)	同上
	到達目標	同上	
5	講義内容	内分泌疾患(副腎疾患)血液疾患(解剖生理・貧血)	同上
	到達目標	同上	
6	講義内容	血液疾患(造血器腫瘍・出血性疾患)	同上
	到達目標	同上	
7	講義内容	腎疾患(解剖生理・腎不全)	同上
	到達目標	同上	
8	講義内容	腎疾患(ネフローゼ・結石、感染疾患・前立腺性疾患等)	同上
	到達目標	同上	
9	講義内容	神経疾患(主要徴候・脳血管障害)	同上
	到達目標	同上	
10	講義内容	神経疾患(脳血管障害・感染性疾患)	同上
	到達目標	同上	
11	講義内容	神経疾患(認知症・パーキンソン病)	同上
	到達目標	同上	
12	講義内容	神経医疾患(ALS・重症筋無力症・ギランバレー症候群等)	同上
	到達目標	同上	
13	講義内容	神経疾患(進行性筋ジストロフィー)膠原病(RA)	同上
	到達目標	同上	
14	講義内容	膠原病(SLE・強皮症・多発性筋炎・ベーチェット病等)	同上
	到達目標	同上	
15	講義内容	感染症(総論・HIV・梅毒等)	練習問題
	到達目標	同上	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	外科学概論			講師名		榎木 英介		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	外傷処置を専門とする柔道整復師に必要な外科領域の基本的知識を習得する。 また、応急処置に関わつ救急処置法について講義する。							
到達目標	外科学の概念を理解する 救命救急の基本的知識の会得							
テキスト	外科学概論 改訂第4版(南江堂)							
参考文献								
評価基準	筆記試験 100%							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	外科学とは	確認問題を実施
	到達目標		
2	講義内容	損傷とは	確認問題を実施
	到達目標	損傷の分類、バイタルサイン、熱傷について理解する	
3	講義内容	炎症と感染症	確認問題を実施
	到達目標	感染症の種類と処置を理解する。	
4	講義内容	腫瘍① 概念 成因 分類 良性腫瘍	確認問題を実施
	到達目標	腫瘍の分類と成因を理解する	
5	講義内容	腫瘍② 悪性腫瘍 発育様式 診断 治療	確認問題を実施
	到達目標	腫瘍の発育形式と診断について理解する	
6	講義内容	ショック、輸血 輸液	確認問題を実施
	到達目標	ショック時の対応、輸血成分を理解する	
7	講義内容	消毒と滅菌	確認問題を実施
	到達目標	消毒の適応と種類を理解する	
8	講義内容	手術と麻酔	確認問題を実施
	到達目標	麻酔の種類、適応を理解する	
9	講義内容	移植と免疫	確認問題を実施
	到達目標	移植の分類、法律について理解する	
10	講義内容	出欠と止血	確認問題を実施
	到達目標	各部位の止血の方法を理解する	
11	講義内容	心肺蘇生	確認問題を実施
	到達目標	CPRの手順を理解する	
12	講義内容	脳神経外科疾患、甲状腺・頸部疾患	確認問題を実施
	到達目標	概要を理解する	
13	講義内容	胸壁・呼吸器疾患・心臓疾患	確認問題を実施
	到達目標	概要を理解する	
14	講義内容	心臓疾患・脈管疾患	確認問題を実施
	到達目標	概要を理解する	
15	講義内容	腹部外科疾患	確認問題を実施
	到達目標	概要を理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	2	単位
科目名	整形外科科学Ⅰ			講師名		榎木 英介		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	柔道整復学の応用ともなる整形外科科学の基礎的知識を身につけ、手術適応の外傷、その後の処置やリハビリへ導くうえでの必要な分野と考える。 この科目では整形外科の基礎的な項目について講義である							
到達目標	基礎的な疾患を理解し、柔道整復術につなげることができる 臨床において、鑑別するうえでの基礎知識を身につける							
テキスト	整形外科科学 改訂第4版(南江堂)							
参考文献								
評価基準	筆記試験 100%							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	整形外科学総論	確認問題を実施
	到達目標	運動器の基礎知識が理解できている	
2	講義内容	整形外科診察法	確認問題を実施
	到達目標	姿勢・四肢のバランス、周径、跛行、反射などが理解できている	
3	講義内容	整形外科検査法	確認問題を実施
	到達目標	画像検査機器の種類、特徴が理解できている	
4	講義内容	整形外科治療法	確認問題を実施
	到達目標	保尊療法、観血的療法を理解する	
5	講義内容	骨・関節損傷総論 骨折・脱臼・捻挫	確認問題を実施
	到達目標	骨折・脱臼・捻挫の総論を理解する	
6	講義内容	感染性疾患	確認問題を実施
	到達目標	感染性の疾患の特徴を理解する	
7	講義内容	骨・軟部腫瘍(悪性)	確認問題を実施
	到達目標	骨腫瘍の好発年齢、部位を理解する	
8	講義内容	骨・軟部腫瘍(良性)	確認問題を実施
	到達目標	骨腫瘍の好発年齢、部位を理解する	
9	講義内容	全身性の骨・軟部疾患	確認問題を実施
	到達目標	先天的骨疾患について理解する	
10	講義内容	四肢の循環障害	確認問題を実施
	到達目標	循環障害の症状を理解する	
11	講義内容	神経麻痺・絞扼性神経障害	確認問題を実施
	到達目標	神経麻痺・絞扼性神経障害を理解する	
12	講義内容	腕神経叢損傷・分娩麻痺	確認問題を実施
	到達目標	概要を理解する	
13	講義内容	全身性神経・筋疾患	確認問題を実施
	到達目標	概要を理解する	
14	講義内容	脊髄損傷	確認問題を実施
	到達目標	概要を理解する	
15	講義内容	脊髄腫瘍	確認問題を実施
	到達目標	概要を理解する	

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	2 単位
科目名	整形外科Ⅱ＜臨床＞		講師名	榎木 英介	
実務内容			実務経験		
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	柔道整復師として必要な整形外科の知識を、教科書に準拠し、且つ過去の国家試験問題も参考にしながら、その内容を整理し、これを教授する。				
到達目標	一定の整形外科に関する知識を得られるように、内容を整理し、国家試験合格を目標とする。				
テキスト	全国柔道整復学校協会監修 整形外科 改訂第4版(南江堂)				
参考文献					
評価基準	評価試験				
履修上の注意					
備考					

講義計画			成果確認
1	講義内容	スポーツ整形外科総論	確認問題を実施
	到達目標	競技別の発生頻度について理解する	
2	講義内容	リハビリテーション総論	確認問題を実施
	到達目標	整形外科的分野におけるリハビリの総論を理解する	
3	講義内容	非感染性軟部・骨関節疾患 変形性関節症、関節リウマチ、痛風、	確認問題を実施
	到達目標	各疾患について症状、診断、治療を理解する	
4	講義内容	非感染性軟部・骨関節疾患 血友病、離断性骨軟骨炎、関節遊離体、骨粗鬆症	確認問題を実施
	到達目標	各疾患について症状、診断、治療を理解する	
5	講義内容	身体各部の整形外科疾患:体幹の疾患 頸部	確認問題を実施
	到達目標	各疾患について症状、診断、治療を理解する	
6	講義内容	身体各部の整形外科疾患:体幹の疾患 胸部	確認問題を実施
	到達目標	各疾患について症状、診断、治療を理解する	
7	講義内容	身体各部の整形外科疾患:体幹の疾患 腰部	確認問題を実施
	到達目標	各疾患について症状、診断、治療を理解する	
8	講義内容	身体各部の整形外科疾患:上肢の疾患 肩・肩甲骨	確認問題を実施
	到達目標	各疾患について症状、診断、治療を理解する	
9	講義内容	身体各部の整形外科疾患:上肢の疾患 上腕	確認問題を実施
	到達目標	各疾患について症状、診断、治療を理解する	
10	講義内容	身体各部の整形外科疾患:上肢の疾患 前弯・手関節	確認問題を実施
	到達目標	各疾患について症状、診断、治療を理解する	
11	講義内容	身体各部の整形外科疾患:上肢の疾患 手指	確認問題を実施
	到達目標	各疾患について症状、診断、治療を理解する	
12	講義内容	身体各部の整形外科疾患:下肢の疾患 骨盤	確認問題を実施
	到達目標	各疾患について症状、診断、治療を理解する	
13	講義内容	身体各部の整形外科疾患:下肢の疾患 大腿部	確認問題を実施
	到達目標	各疾患について症状、診断、治療を理解する	
14	講義内容	身体各部の整形外科疾患:下肢の疾患 下腿部	確認問題を実施
	到達目標	各疾患について症状、診断、治療を理解する	
15	講義内容	身体各部の整形外科疾患:下肢の疾患 足部	確認問題を実施
	到達目標	各疾患について症状、診断、治療を理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	リハビリテーション医学Ⅰ（基礎）			講師名		池尾 忠思		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野			
講義目的	リハビリテーション医学Ⅰの学習を通して、柔道整復師に必要な基礎医学の知識向上を図るとともに、臨床家としての心構えを養う。							
到達目標	リハビリテーション医学の分野において、国家試験に合格することのできる知識を習得し、臨床家として必要な基礎知識を身につける。							
テキスト	教科書（リハビリテーション医学 改定第4版 南江堂）							
参考文献	適宜プリント配布							
評価基準	評価試験（四者択一または四者択二問題、25問程度）							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	リハビリテーション概論（語源・理念等）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	リハビリテーションとは何かを理解する	
2	講義内容	リハビリテーション医学（分類・対象）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	リハビリテーションの分類と対象を知る	
3	講義内容	リハビリテーション医学（障害学・日本の身体障がい者の動向）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	日本の身体障がい者について理解する	
4	講義内容	リハビリテーション医学（リハビリテーション医学と障害学）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	障害学について理解する	
5	講義内容	リハビリテーション医学の評価法（患者のとらえ方）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	評価と診断の違いについて学ぶ	
6	講義内容	リハビリテーション医学の評価法（身体計測・筋力テスト）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	身体計測、筋力テストの方法を知る	
7	講義内容	リハビリテーション医学の評価法（関節可動域テスト喉）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	関節可動域テストの方法を理解する	
8	講義内容	リハビリテーション医学の評価法（中枢性運動障害の評価・痙縮の評価）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	脳卒中片麻痺の評価法を理解する	
9	講義内容	リハビリテーション医学の評価法（小児運動発達の評価）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	小児の運動発達について理解する	
10	講義内容	リハビリテーション医学の評価法（運動失調の評価）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	運動失調の病態と評価法について理解する	
11	講義内容	リハビリテーション医学の評価法（失行・失認の評価）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	失行について理解する	
12	講義内容	リハビリテーション医学の評価法（失行・失認の評価）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	失認について理解する	
13	講義内容	リハビリテーション医学の評価法（心理評価・認知症の評価）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	心理評価について理解する	
14	講義内容	リハビリテーション医学の評価法（心理評価・認知症の評価）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	認知症について理解する	
15	講義内容	リハビリテーション医学の評価法（日常生活活動の評価）	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	日常生活活動について理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	リハビリテーション医学Ⅱ（臨床）			講師名		池尾 忠思		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	後期		分野	専門基礎分野		
講義目的	リハビリテーション医学Ⅱの学習を通して、柔道整復師として必要な臨床医学の知識向上を図るとともに、臨床家としての技術を養う。							
到達目標	リハビリテーション医学の分野において、国家試験に合格することのできる知識を習得し、臨床家として必要な基本的な能力を身につける。							
テキスト	教科書（リハビリテーション医学 改定第4版 南江堂）							
参考文献	適宜プリント配布							
評価基準	評価試験（四者択一または四者択二問題、25問程度）							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	リハビリテーションの専門分野(理学療法)	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	理学療法について理解する理解する	
2	講義内容	リハビリテーションの専門分野(作業療法)	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	作業療法について理解する	
3	講義内容	リハビリテーションの専門分野(言語聴覚療法)	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	言語聴覚療法について理解する	
4	講義内容	障害別リハビリテーションの実際(関節拘縮と関節可動域訓練)	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	関節可動域訓練の方法を理解する	
5	講義内容	障害別リハビリテーションの実際(筋力低下と筋力増強訓練)	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	筋力低下と各種の筋力増強訓練について理解する	
6	講義内容	障害別リハビリテーションの実際(運動麻痺と神経筋再教育)	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	運動麻痺と各種の神経筋再教育法について学ぶ	
7	講義内容	障害別リハビリテーションの実際(老化・排泄障害)	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	老化と排泄障害の仕組みについて理解する	
8	講義内容	リハビリテーション医学と関連職種	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	リハビリテーション関連職種の役割について理解する	
9	講義内容	疾患別リハビリテーションの実際(脳卒中)	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	脳卒中片麻痺患者の病態とリハビリテーションを理解する	
10	講義内容	疾患別リハビリテーションの実際(脳卒中)	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	脳卒中片麻痺患者の病態とリハビリテーションを理解する	
11	講義内容	疾患別リハビリテーションの実際(脊髄損傷)	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	脊髄損傷の病態とリハビリテーションについて理解する	
12	講義内容	疾患別リハビリテーションの実際(脊髄損傷)	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	脊髄損傷の病態とリハビリテーションについて理解する	
13	講義内容	疾患別リハビリテーションの実際(脳性麻痺)	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	脳性麻痺の病態と療育について理解する	
14	講義内容	疾患別リハビリテーションの実際(脳性麻痺)	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	脳性麻痺の病態と療育について理解する	
15	講義内容	疾患別リハビリテーションの実際(疾患別治療体操)	授業開始前に質問やミニテストを通して確認する
	到達目標	各種の体操療法について理解する	



対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位 (15時間)
科目名	リハビリテーション演習 (海外研修読替)			講師名		田中雅博		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	演習	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	リハビリテーション医学での基礎的知識から運動器障害に関わる回復訓練、治療法手技療法及びリハビリテーション計画を演習実践から総合的に習得する。							
到達目標	柔道整復術の応用としてリハビリ訓練等を実践することができる。							
テキスト	毎時限、資料を配布							
参考文献	リハビリテーション医学 改定第4版／ 南江堂 プロメテウス解剖学アトラス (解剖学総論運動器系)／医学書院							
評価基準	リポート課題 90% 授業貢献度 10%							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	ガイダンス	終了時に質疑応答
	到達目標		
2	講義内容	リハビリ評価・方法	終了時に質疑応答
	到達目標	評価・方法について理解する	
3	講義内容	リハビリ評価・方法(実践)	終了時に質疑応答
	到達目標	手順を理解する	
4	講義内容	リハビリ診断	終了時に質疑応答
	到達目標	理論を理解する	
5	講義内容	リハビリ診断・方法(実践)	終了時に質疑応答
	到達目標	手順を理解する	
6	講義内容	運動機能リハビリテーション① 身体計測、筋力テスト	終了時に質疑応答
	到達目標	身体計測、筋力テストの手順を理解する	
7	講義内容	運動機能リハビリテーション② ADL評価演習	終了時に質疑応答
	到達目標	ADL評価の手順を理解する	
8	講義内容	目標設定と治療計画の立て方	終了時に質疑応答
	到達目標	治療計画を立てることができる	
9	講義内容		
	到達目標		
10	講義内容		
	到達目標		
11	講義内容		
	到達目標		
12	講義内容		
	到達目標		
13	講義内容		
	到達目標		
14	講義内容		
	到達目標		
15	講義内容		
	到達目標		

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	柔道Ⅲ			講師名		中村 義毅		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床、柔道有段者として柔道を指導							
講義形態	実技	学期	前期		分野	専門基礎分野		
講義目的	身体の仕組み(機能解剖学)と関節運動(運動学)を柔道を通じて、理解する。「柔よく剛を制する」の原理を体感し、「受・取」互いの動きを理論的に実践する。							
到達目標	柔道技を、クラスメイトと共に習得し、柔道の楽しさと仕組みを理解しながら、ケガの予防や防止するための動作確認を行うことができるようになる。							
テキスト	昇段審査のための柔道の形入門(大泉書店)							
参考文献								
評価基準	実技評価試験							
履修上の注意	出席率4／5以上							
備考	柔道着着用							

講義計画			成果確認
1	講義内容	受身・打込の復習 背負い投げの説明 技の組立てを理解し出来るようにする	背負い投げの崩しができる
	到達目標	投げられても頭を打たない。	
2	講義内容	受身・打込の復習 技を理解し、正しい投げ方が出来るようになる	右・左の背負い投げができる
	到達目標	投げられても頭を打たない。	
3	講義内容	受身・払い腰の説明 技を理解し正しい投げ方が出来るようになる	払い腰の崩しができる
	到達目標	体さばきを理解する	
4	講義内容	受身・払い腰の復習 体落しの説明・理解して正しい投げ方を練習する	体落としの崩しができる
	到達目標	正しい体さばきがで投げることができる。	
5	講義内容	受身・体落しの正しい技のかけ方を練習し、投げられるようになる	右・左の体落としができる
	到達目標	正しい体さばきがで投げることができる。	
6	講義内容	受身・大外刈りの説明 技を理解し、正しい投げ方が出来るようになる	大外刈りの崩しができる
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
7	講義内容	形、浮き落しの説明 技を理解して、受・取の動作が出来るようになる(右)	受・取で継足が揃う
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
8	講義内容	形、浮き落しの練習 受・取の動作が出来るようになる(左)	受・取で浮き落としが合う
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
9	講義内容	形、背負い投げの説明 技を理解して、受・取の動作が出来るようになる(右)	受・取で右背負投げが合う
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
10	講義内容	形、背負い投げの練習 受・取の動作が出来るようになる(左)	受・取で左背負投げが合う
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
11	講義内容	形、肩車の説明 技を理解して、受・取の動作が出来るようになる(右)	受・取で右肩車が合う
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
12	講義内容	形、肩車の練習 受・取の動作が出来るようになる(左)	受・取で左肩車が合う
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
13	講義内容	形、浮き落とし・背負い投げ・肩車の復習 形の礼法の説明と練習	受・取で浮落が合う
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
14	講義内容	形、手技の復習 礼法の練習 約束乱取の練習	受・取で乱取ができる。
	到達目標	すべての内容が理解できる	
15	講義内容	テストに向けて、認定実技試験形式での練習	受・取で動きながら技をかける
	到達目標	投げられても受身が取れる。	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	柔道Ⅳ			講師名		中村 義毅		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床、柔道有段者として柔道を指導							
講義形態	実技		学期	後期		分野	専門基礎分野	
講義目的	身体の仕組み(機能解剖学)と関節運動(運動学)を柔道を通じて、理解する。「柔よく剛を制する」の原理を体感し、「受・取」互いの動きを理論的に実践する。							
到達目標	「柔よく剛を制する」を実践する動作である“投げの形”の動きができる。							
テキスト	昇段審査のための柔道の形入門(大泉書店)							
参考文献								
評価基準	実技評価試験							
履修上の注意	出席率4／5以上							
備考	柔道着着用							

講義計画			成果確認
1	講義内容	形、浮腰の説明 技を理解して、受・取の動作が出来るようになる(右)	受と取の動きがそれぞれできる。
	到達目標	受手は受身を取手は投げが正しくできる。	
2	講義内容	形、浮腰の練習 受・取の動作が出来るようになる(左)	受と取の動きがそれぞれできる。
	到達目標	受手は受身を取手は投げが正しくできる。	
3	講義内容	形、払腰の説明 技を理解して、練習、習得する(右)	受と取の動きがそれぞれできる。
	到達目標	受手は受身を取手は投げが正しくできる。	
4	講義内容	形、払腰の練習 技を理解して、練習、習得する(左)	受と取の動きがそれぞれできる。
	到達目標	受手は受身を取手は投げが正しくできる。	
5	講義内容	形、釣込み腰の説明 技を理解して、練習、習得する(右)	受と取の動きがそれぞれできる。
	到達目標	受手は受身を取手は投げが正しくできる。	
6	講義内容	形、釣込み腰の練習 技を理解して、練習、習得する(左)	受と取の動きがそれぞれできる。
	到達目標	受手は受身を取手は投げが正しくできる。	
7	講義内容	形、送り足払いの説明 技を理解して、練習、習得する(右)	受と取の動きがそれぞれできる。
	到達目標	受手は受身を取手は投げが正しくできる。	
8	講義内容	形、送り足払いの練習 技を理解して、練習、習得する(左)	受と取の動きがそれぞれできる。
	到達目標	受手は受身を取手は投げが正しくできる。	
9	講義内容	形、支え釣込足の説明 技を理解して、練習、習得する(右)	受と取の動きがそれぞれできる。
	到達目標	受手は受身を取手は投げが正しくできる。	
10	講義内容	形、支え釣込足の練習 技を理解して、練習、習得する(左)	受と取の動きがそれぞれできる。
	到達目標	受手は受身を取手は投げが正しくできる。	
11	講義内容	形、内股の説明 技を理解して、練習、習得する(右)	受と取の動きがそれぞれできる。
	到達目標	受手は受身を取手は投げが正しくできる。	
12	講義内容	形、内股の練習 技を理解して、練習、習得する(左)	受と取の動きがそれぞれできる。
	到達目標	受手は受身を取手は投げが正しくできる。	
13	講義内容	形、腰技の復習(技の名称と動作を確認し復習する)	受と取の動きがそれぞれできる。
	到達目標	受手は受身を取手は投げが正しくできる。	
14	講義内容	形、足技の復習(技の名称と動作を確認し復習する)	受と取の動きがそれぞれできる。
	到達目標	受手は受身を取手は投げが正しくできる。	
15	講義内容	テストに向けて、認定実技試験形式での練習	受と取の動きがすべて正しくできる。
	到達目標	これまでの投の形の内容がすべて行える。	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	2	単位
科目名	柔道整復各論Ⅲ			講師名		木村 優花		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	実技	学期	後期	分野		専門分野		
講義目的	身体機能的な解剖を理解したうえで、柔道整復の治療技術を身につける。 柔道整復師として、今後の臨床に役立つ知識・技術を身につける。							
到達目標	身体の機能解剖を理解し、体表解剖および触診ができる。							
テキスト	柔道整復学・理論編(南江堂) 解剖学(医歯薬出版)							
参考文献	プロメテウス(医学書院)・ネッター(南江堂)							
評価基準	実技テスト 80% 小テスト 10% 提出物 10%							
履修上の注意	資料等の配布物と教科書を持参する。							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	機能解剖①(肩関節)	授業中に質疑応答
	到達目標	肩関節の機能解剖・体表解剖が理解できる	
2	講義内容	機能解剖②(肘関節)	授業中に質疑応答
	到達目標	肘関節の機能解剖・体表解剖が理解できる	
3	講義内容	機能解剖③(手関節)	授業中に質疑応答
	到達目標	手関節の機能解剖・体表解剖が理解できる	
4	講義内容	機能解剖④(股関節)	授業中に実技応答
	到達目標	股関節の機能解剖・体表解剖が理解できる	
5	講義内容	機能解剖⑤(膝関節)	授業中に質疑応答
	到達目標	膝関節の機能解剖・体表解剖が理解できる	
6	講義内容	機能解剖⑥(足関節)	授業中に質疑応答
	到達目標	足関節の機能解剖・体表解剖が理解できる	
7	講義内容	機能解剖⑦(体幹)	授業中に質疑応答
	到達目標	脊柱、胸郭の機能解剖・体表解剖が理解できる	
8	講義内容	上肢の診察・評価①(肩関節～肘関節)	授業中に確認
	到達目標	肩関節・肘関節の症例に対する診察および評価ができる	
9	講義内容	上肢の診察・評価②(前腕～手部)	授業中に確認
	到達目標	前腕・手部の症例に対する診察および評価ができる	
10	講義内容	下肢の診察・評価①(股関節～膝関節)	授業中に確認
	到達目標	股関節・膝関節の症例に対する診察および評価ができる	
11	講義内容	下肢の診察・評価②(下腿～足関節)	授業中に確認
	到達目標	下腿・足関節の症例に対する診察および評価ができる	
12	講義内容	体幹の診察・評価	授業中に確認
	到達目標	脊柱、胸郭の症例に対する診察および評価ができる	
13	講義内容	姿勢評価	授業中に確認
	到達目標	正しい姿勢の評価ができる	
14	講義内容	歩行評価	授業中に確認
	到達目標	正しい歩行の評価ができる	
15	講義内容	総復習	授業中に確認
	到達目標	各部の機能解剖・体表解剖が理解および評価ができる	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	2	単位
科目名	柔道整復臨床Ⅰ			講師名		中谷 功		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床							
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	上肢の骨折と脱臼のメカニズムを理解し、臨床の現場ですぐに活かせる力をつける							
到達目標	各外傷の発生機序・症状・整復・固定・後療法を理解している 実技対象の症例において、実技に生かすことができる							
テキスト	柔道整復学 ◎理論編 第7版 ◎実技署 第2版 全国柔道整復学校協会／南江堂 配布プリント PowerPoint資料							
参考文献								
評価基準	定期試験 100%							
履修上の注意	授業時に配布される資料と教科書を毎度持参すること							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	上腕骨骨幹部骨折①	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	肩関節の解剖を理解する	
2	講義内容	上腕骨骨幹部骨折②	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	治療方針、整復法を理解する	
3	講義内容	上腕骨骨幹部骨折③～上腕骨遠位端部骨折 総論	授業の最後にミニテストを行い、理解度を確認する。
	到達目標	固定法、肘関節周囲の骨折の種類を理解する	
4	講義内容	上腕骨顆上骨折①	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	肘関節X-p写真のみかたを理解する	
5	講義内容	上腕骨顆上骨折②	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	整復法、合併症を理解する	
6	講義内容	上腕骨顆上骨折③～上腕骨外顆骨折①	授業の最後にミニテストを行い、理解度を確認する。
	到達目標	後遺症、外顆骨折の概要を理解する	
7	講義内容	上腕骨外顆骨折②	授業の最後にミニテストを行い、理解度を確認する。
	到達目標	症状、後遺症を理解する	
8	講義内容	上腕骨内側上顆骨折	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	内上顆骨折のメカニズムを理解する	
9	講義内容	外傷性脱臼総論～前腕両骨後方脱臼①	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	肘関節脱臼の種類、後方脱臼の概要を理解する	
10	講義内容	前腕両骨後方脱臼②～前腕両骨開排脱臼	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	肘関節後方脱臼以外の稀な脱臼を理解する	
11	講義内容	橈骨頭単独脱臼～橈骨近位端部骨折①	授業の最後にミニテストを行い、理解度を確認する。
	到達目標	肘内障の整復がすぐ出来るよう理解する	
12	講義内容	橈骨近位端部骨折②～肘頭骨折①	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	橈骨の捻転程度、肘頭骨折の症状を理解する	
13	講義内容	肘頭骨折②～橈骨骨幹部単独骨折①	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	整復法、橈骨骨幹部単独骨折の転位を理解する	
14	講義内容	テスト範囲対策授業	授業の最後にミニテストを行い、理解度を確認する。
	到達目標	テスト範囲の復習をして理解を深める	
15	講義内容	中間テスト	4択25問を解き理解を深める
	到達目標	上腕骨骨幹部骨折～肘頭骨折までの理解度確認	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	2	単位
科目名	柔道整復臨床Ⅱ			講師名		中谷 功		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床							
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	上肢の骨折と脱臼のメカニズムを理解し、臨床の現場ですぐに活かせる力をつける							
到達目標	各外傷の発生機序・症状・整復・固定・後療法を理解している 実技対象の症例において、実技に生かすことができる							
テキスト	柔道整復学 ◎理論編 第7版 ◎実技署 第2版 全国柔道整復学校協会／南江堂 配布プリント PowerPoint資料							
参考文献								
評価基準	定期試験 100%							
履修上の注意	授業時に配布される資料と教科書を毎度持参すること							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	橈骨骨幹部単独骨折②～尺骨骨幹部単独骨折	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	ガレアジ骨折を理解する	
2	講義内容	モンテギア骨折～前腕両骨骨幹部骨折①	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	モンテギア骨折などを理解する	
3	講義内容	前腕両骨骨幹部骨折②～コーレス骨折①	授業の最後にミニテストを 行い、理解度を確認する。
	到達目標	橈骨遠位端部骨折の種類、X-p写真のみかたを理解する	
4	講義内容	コーレス骨折②	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	治療方針、合併症を理解する	
5	講義内容	コーレス骨折③～スミス骨折	授業の最後にミニテストを 行い、理解度を確認する。
	到達目標	スミス骨折を理解する	
6	講義内容	上腕骨遠位端部骨端線離開～バートン骨折	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	骨端線損傷、バートン骨折のメカニズムを理解する	
7	講義内容	遠位橈尺関節脱臼～橈骨手根関節脱臼	授業の最後にミニテストを 行い、理解度を確認する。
	到達目標	手関節周囲の脱臼を理解する	
8	講義内容	手根骨骨折 総論～舟状骨骨折①	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	手根骨骨折の種類を理解する	
9	講義内容	舟状骨骨折②～有頭骨骨折	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	舟状骨骨折のメカニズムを理解する	
10	講義内容	月状骨脱臼～CM関節脱臼	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	月状骨脱臼のメカニズムを理解する	
11	講義内容	中手骨骨折 総論～ボクサー骨折	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	手部の解剖、中手骨頸部骨折を理解する	
12	講義内容	中手骨骨幹部骨折～ローランド骨折	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	中手骨骨幹部骨折、ベネット骨折のメカニズムを理解する	
13	講義内容	母指MP関節脱臼	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	母指MP関節脱臼のメカニズムを理解する	
14	講義内容	四指MP関節脱臼～基節骨骨折	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	MP関節脱臼、基節骨骨折のメカニズムを理解する	
15	講義内容	中節骨骨折～末節骨骨折	授業の最後にミニテストを 行い、理解度を確認する。
	到達目標	指先の骨折メカニズムを理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	2	単位
科目名	柔道整復臨床Ⅲ			講師名		福田 学		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院にて柔道整復師として臨床							
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	骨盤・下肢部における解剖学(骨・筋・神経等)の復習を行いながら、骨折・脱臼の授業を行う。 理解を深めるために画像を利用したパワーポイントを中心に理解する講義を行う。							
到達目標	発生機序・症状・整復・固定・後療法を理解している 実技対象の症例において、実技に生かすことができる 臨床現場で考えることができる医療人になれるよう、理解ができてようになる。							
テキスト	柔道整復学・理論編(南江堂 第7班) 柔道整復学・実技編(南江堂 第2班)							
参考文献	ネッター解剖学アトラス(南江堂)							
評価基準	定期試験 80% 小テスト 10% 授業貢献度・提出物 10%							
履修上の注意	授業時に配布する資料をファイリングして毎回持参すること							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	骨盤骨折 総論	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	解剖学(骨盤の形・名称など)を復習	
2	講義内容	骨盤骨折 骨盤単独骨折	前回授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
3	講義内容	骨盤骨折 骨盤骨輪骨折	前回授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
4	講義内容	大腿骨近位端部骨折	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	大腿骨の解剖・骨折の場所・骨折の仕方の理解	
5	講義内容	大腿骨近位端部骨折	前回授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
6	講義内容	大腿骨近位端部骨折	前回授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
7	講義内容	股関節脱臼 後方脱臼	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
8	講義内容	股関節脱臼 前方脱臼	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
9	講義内容	大腿骨骨幹部骨折	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序・症状を理解する	
10	講義内容	大腿骨骨幹部骨折	前回授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	発生機序・症状を理解する	
11	講義内容	大腿骨遠位部骨折	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序・症状を理解する	
12	講義内容	大腿骨遠位部骨折	前回授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
13	講義内容	膝蓋骨骨折	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序・症状を理解する	
14	講義内容	膝蓋骨骨折	前回授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	膝蓋骨骨折	
15	講義内容	膝蓋骨骨折	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	2	単位
科目名	柔道整復臨床Ⅳ			講師名		福田 学		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院にて柔道整復師として臨床							
講義形態	講義	学期	後期	分野		専門分野		
講義目的	骨盤・下肢部における解剖学(骨・筋・神経等)の復習を行いながら、骨折・脱臼の授業を行う。 理解を深めるために画像を利用したパワーポイントを中心に理解する講義を行う。							
到達目標	発生機序・症状・整復・固定・後療法を理解している 実技対象の症例において、実技に生かすことができる 臨床現場で考えることができる医療人になれるよう、理解ができてようになる。							
テキスト	柔道整復学・理論編(南江堂 第7班) 柔道整復学・実技編(南江堂 第2班)							
参考文献	ネッター解剖学アトラス(南江堂)							
評価基準	定期試験 80% 小テスト 10% 授業貢献度・提出物 10%							
履修上の注意	授業時に配布する資料をファイリングして毎回持参すること							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	膝関節脱臼	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序・症状を理解する	
2	講義内容	膝関節脱臼	前回授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
3	講義内容	下腿骨近位端部骨折	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序・症状・を理解する	
4	講義内容	下腿骨近位端部骨折	前回授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
5	講義内容	下腿骨骨幹部骨折	前回授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	発生機序・症状を理解する	
6	講義内容	下腿骨骨幹部骨折	前回授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
7	講義内容	下腿骨骨幹部骨折	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
8	講義内容	下腿骨遠位端部骨折	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
9	講義内容	足関節脱臼骨折	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序を理解する	
10	講義内容	足関節脱臼骨折	前回授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	発生機序・症状・を理解する	
11	講義内容	足関節脱臼骨折	前回授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
12	講義内容	足・足指骨骨折 距骨骨折	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
13	講義内容	足・足指骨骨折 踵骨骨折	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
14	講義内容	足・足指骨骨折 舟状骨骨折	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	
15	講義内容	足・足指骨骨折 中足骨・足指骨骨折	授業の最後に全員が答えられるように口頭確認を行い、理解度を確認する。
	到達目標	発生機序・症状・整復・固定を理解する	



対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	2	単位
科目名	柔道整復臨床演習Ⅰ			講師名		中谷 功		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床							
講義形態	講義	学期	後期	分野		専門分野		
講義目的	骨折、脱臼を除く身体のケガについて詳しくなること ケガのメカニズムを理解し正しい評価が出来るようになること 臨床で活かせる知識を身につけること							
到達目標	各軟部組織損傷の発生機序、症状、治療方針が理解できる 実技対象の症例において、実技に生かすことができる							
テキスト	柔道整復学 ◎理論編 第7版 ◎実技署 第2版 全国柔道整復学校協会／南江堂 配布プリント PowerPoint資料							
参考文献								
評価基準	定期試験 100%							
履修上の注意	授業時に配布される資料と教科書を毎度持参すること							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	頭部顔面部打撲～顎関節症①	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
2	講義内容	顎関節症②～寝違え	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
3	講義内容	むち打ち損傷～外傷性腕神経叢麻痺①	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
4	講義内容	外傷性腕神経叢麻痺②～分娩麻痺	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
5	講義内容	副神経麻痺～頸椎椎間板ヘルニア①	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
6	講義内容	頸椎椎間板ヘルニア②～後縦靱帯骨化症	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
7	講義内容	胸郭出口症候群～胸背部の挫傷	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
8	講義内容	脊椎側湾症～腰部の軟部組織損傷	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
9	講義内容	腰椎分離症・すべり症～腰部脊柱管狭窄症	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
10	講義内容	腰椎椎間板ヘルニア～腱板損傷①	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
11	講義内容	腱板損傷②～上腕二頭筋長頭腱炎	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
12	講義内容	肩関節周囲炎～石灰沈着製腱板炎～様々な変形性関節症	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
13	講義内容	野球肩①	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
14	講義内容	野球肩②～野球肘	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
15	講義内容	上腕骨外側上顆炎～ギオン管症候群	授業の内容からランダムに答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	2	単位
科目名	柔道整復臨床演習Ⅱ			講師名		中谷 功		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床							
講義形態	講義	学期	後期		分野	専門分野		
講義目的	骨折、脱臼を除く身体のケガについて詳しくなること ケガのメカニズムを理解し正しい評価が出来るようになること 臨床で活かせる知識を身につけること							
到達目標	各軟部組織損傷の発生機序、症状、治療方針が理解できる 実技対象の症例において、実技に生かすことができる							
テキスト	柔道整復学 ◎理論編 第7版 ◎実技書 第2版 全国柔道整復学校協会／南江堂 配布プリント PowerPoint資料							
参考文献								
評価基準	定期試験 100%							
履修上の注意	授業時に配布される資料と教科書を毎度持参すること							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	円回内筋症候群～TFCC損傷	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
2	講義内容	deQuervain病～バネ指、強剛母指	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
3	講義内容	手関節・手指部の変形～股関節屈曲位拘縮	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
4	講義内容	鼠径部痛症候群～単純性股関節炎	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
5	講義内容	バネ股～梨状筋症候群	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
6	講義内容	肉離れ～腸脛靱帯炎	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
7	講義内容	膝関節MCL、LCL、ACL損傷	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
8	講義内容	膝関節PCL、MM,LM損傷～鷲足炎	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
9	講義内容	ジャンパー膝(SLJ、Osgood)から有痛性分裂膝蓋骨	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
10	講義内容	フォックファ病～コンパートメント症候群～こむら返り	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
11	講義内容	アキレス腱断裂からシーバー病	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
12	講義内容	足関節捻挫～足趾部の損傷	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
13	講義内容	腓骨筋腱脱臼～有痛性外脛骨	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
14	講義内容	踵骨棘～扁平足	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	
15	講義内容	外反母趾～足部の変形	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	各疾患の特徴を理解する	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	2	単位
科目名	柔道整復臨床演習Ⅲ			講師名		西 正人		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床							
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	上腕骨や上肢帯の骨や関節などの解剖学を復習しながら、骨折や脱臼の授業を行う。 また、国家試験の過去問に準じた説明も行い、国家試験に対しても対応できるようにする。							
到達目標	身体の構造を把握し、リスク管理がしっかりできるような医療人になれるように学生を育てる。							
テキスト	公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編、実技編							
参考文献								
評価基準	評価試験70%、小テスト30%							
履修上の注意								
備考	小テストを2回実施する							

講義計画			成果確認
1	講義内容	鎖骨の解剖学 鎖骨骨折の発生、転位	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	鎖骨骨折の発生機序を理解する。	
2	講義内容	鎖骨骨折の症状、整復	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	鎖骨骨折の症状を理解する。	
3	講義内容	鎖骨骨折の固定法、合併症	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	鎖骨骨折の合併症を理解する。	
4	講義内容	肩鎖関節の解剖学 肩鎖関節脱臼の分類	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	肩鎖関節脱臼の分類を理解する。	
5	講義内容	肩鎖関節脱臼の発生、症状、整復、固定法	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	肩鎖関節脱臼の発生機序、症状を理解する。	
6	講義内容	肩関節の解剖学 肩関節脱臼の分類	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	肩関節脱臼の分類を理解する。	
7	講義内容	肩関節脱臼の発生、症状	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	肩関節脱臼の発生機序、症状を理解する。	
8	講義内容	肩関節脱臼の整復、固定法、後療法	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	肩関節脱臼の整復を理解する。	
9	講義内容	肩関節脱臼の合併症 反復性肩関節脱臼	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	反復性肩関節脱臼の要因を理解する。	
10	講義内容	上腕骨近位端部の解剖学 上腕骨近位端部骨折の分類、発生、転位、症状	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	上腕骨近位端部骨折の分類を理解する。	
11	講義内容	上腕骨外科頸骨折の発生、転位	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	上腕骨外科頸骨折の発生機序、転位を理解する。	
12	講義内容	上腕骨外科頸骨折の症状、整復、固定法	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	上腕骨外科頸骨折の症状を理解する。	
13	講義内容	上腕骨外科頸骨折の合併症、鑑別診断、後療法	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	上腕骨外科頸骨折の鑑別診断を理解する。	
14	講義内容	胸鎖関節の解剖学 胸鎖関節脱臼の発生、分類、症状	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	胸鎖関節脱臼の分類、症状を理解する。	
15	講義内容	肩甲骨の解剖学 肩甲骨骨折の分類、転位、症状、合併症	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	肩甲骨骨折の分類、転位を理解する。	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	2	単位
科目名	柔道整復臨床演習Ⅳ			講師名		西 正人		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床							
講義形態	講義	学期	後期	分野		専門分野		
講義目的	胸郭や頭蓋や脊柱の骨や関節などの解剖学を復習しながら、骨折や脱臼の授業を行う。 また、国家試験の過去問に準じた説明も行い、国家試験に対しても対応できるようにする。							
到達目標	身体の構造を把握し、リスク管理がしっかりできるような医療人になれるように学生を育てる。							
テキスト	公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編、実技編							
参考文献								
評価基準	評価試験80%、小テスト20%							
履修上の注意								
備考	小テストを1回実施する。							

講義計画			成果確認
1	講義内容	胸郭(肋骨)の解剖学 肋骨骨折の発生	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	肋骨骨折の発生機序を理解する。	
2	講義内容	肋骨骨折の転位、症状	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	肋骨骨折の症状を理解する。	
3	講義内容	肋骨骨折の合併症、固定法	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	肋骨骨折の合併症を理解する。	
4	講義内容	胸郭(胸骨)の解剖学 胸骨骨折の発生	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	胸骨骨折の発生機序を理解する。	
5	講義内容	胸骨骨折の転位、症状、合併症	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	胸骨骨折の合併症を理解する。	
6	講義内容	顎関節の解剖学 顎関節脱臼の分類、発生	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	顎関節脱臼の発生機序を理解する。	
7	講義内容	顎関節脱臼の症状、整復法、固定法	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	顎関節脱臼の症状を理解する。	
8	講義内容	頭蓋骨の解剖学 頭蓋骨骨折(頭蓋冠骨折の症状)	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	頭蓋冠骨折の症状を理解する。	
9	講義内容	脳神経 頭蓋骨骨折(頭蓋底骨折の症状)	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	頭蓋底骨折の症状を理解する。	
10	講義内容	頭蓋骨骨折(顔面頭蓋骨折の症状)	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	顔面頭蓋骨折の症状を理解する。	
11	講義内容	脊柱の解剖学 頸椎骨折(環椎骨折の症状)	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	環椎骨折の症状を理解する。	
12	講義内容	頸椎骨折(軸椎、第3～7頸椎骨折の症状)	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	軸椎、第3～7頸椎骨折の症状を理解する。	
13	講義内容	胸椎骨折の症状	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	胸椎骨折の症状を理解する。	
14	講義内容	腰椎骨折の症状	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	腰椎骨折の症状を理解する。	
15	講義内容	脊椎脱臼(環軸関節脱臼の症状)	授業の最後に、口頭で内容を答えてもらい、理解度を確認する。
	到達目標	環軸関節脱臼の症状を理解する。	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	応用柔道整復概論Ⅳ			講師名		辻井宏昭 他		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	後期	分野		専門分野		
講義目的	これまで、学んできた分野の中で、特に自分自信が興味を持った内容について研究し論文を作成する。 その研究方法や、論文の空き方などを習得する。							
到達目標	卒業論文作成にあたり、テーマ選考や論文の書き方を習得 興味のある分野への探求心を身につける							
テキスト								
参考文献	論文作成の手引き							
評価基準	仮説の提出、スケジュール案 作成中の過程 を総合的に評価							
履修上の注意	各ゼミ担当の指示に従い、期日までに完成版を提出できるようスケジュールを立てる 作成中は随時、ゼミ担当教員のチェックを受けること							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	論文作成ガイダンス	ゼミ担当教員との面談
	到達目標		
2	講義内容	論文の種類	ゼミ担当教員との面談
	到達目標	論文の種類について理解する	
3	講義内容	論文の書き方①	ゼミ担当教員との面談
	到達目標	論文の書き方、進め方を理解する	
4	講義内容	論文の書き方②	ゼミ担当教員との面談
	到達目標	論文の書き方、進め方を理解する	
5	講義内容	論文の書き方③	ゼミ担当教員との面談
	到達目標	論文の書き方、進め方を理解する	
6	講義内容	論文読み合わせ①	ゼミ担当教員との面談
	到達目標	様々な論文に触れる	
7	講義内容	論文読み合わせ②	ゼミ担当教員との面談
	到達目標	様々な論文に触れる	
8	講義内容	テーマ選考①	ゼミ担当教員との面談
	到達目標	テーマを考える	
9	講義内容	テーマ選考②	ゼミ担当教員との面談
	到達目標	テーマを決める	
10	講義内容	先行研究の研究①	ゼミ担当教員との面談
	到達目標	先行研究の論文を検索する	
11	講義内容	先行研究の研究②	ゼミ担当教員との面談
	到達目標	先行研究の論文を検索する	
12	講義内容	先行研究の研究③	ゼミ担当教員との面談
	到達目標	先行研究の論文を検索する	
13	講義内容	仮説作成①	ゼミ担当教員との面談
	到達目標	研究テーマにそった仮設が立てられる	
14	講義内容	仮説作成②	ゼミ担当教員との面談
	到達目標	研究テーマにそった仮設が立てられる	
15	講義内容	卒論完成スケジュール	ゼミ担当教員との面談
	到達目標	完成までのスケジュールが立てられる	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復基礎実習Ⅰ			講師名		中谷 功		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床							
講義形態	実技	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	財団実技で出題される範囲を理解し、仮想患者と助手を相手に適切な処置が出来ること							
到達目標	財団実技試験に出題される疾患の発生機序・症状・整復・固定・後療法を理解している 臨床の現場を想定した状態で適切な処置が出来ること							
テキスト	柔道整復学 ◎理論編 第7版 ◎実技書 第2版 全国柔道整復学校協会／南江堂 配布プリント							
参考文献								
評価基準	定期試験 80% プレテスト 20%							
履修上の注意	授業時に配布される資料と教科書を毎度持参すること 必ず白衣とズボンを着用した状態であること							
備考	私服での参加は出席を認めない							

講義計画			成果確認
1	講義内容	診察法	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	診察の基本を理解する	
2	講義内容	リング固定帯作成 包帯復習	授業の内容からランダムに 答えさせる
	到達目標	固定法の種類を理解する	
3	講義内容	鎖骨骨折①	授業の内容から実際に学 生の前で発表する
	到達目標	診察、整復が出来るようになる	
4	講義内容	鎖骨骨折②	授業の内容から実際に学 生の前で発表する
	到達目標	固定が出来るようになる	
5	講義内容	鎖骨骨折③	授業の内容から実際に学 生の前で発表する
	到達目標	セイヤー絆創膏固定法、鎖骨整復台の使い方を理解する	
6	講義内容	肩鎖関節脱臼①	授業の内容から実際に学 生の前で発表する
	到達目標	診察、整復が出来るようになる	
7	講義内容	肩鎖関節脱臼②	授業の内容から実際に学 生の前で発表する
	到達目標	固定が出来るようになる	
8	講義内容	プレテスト	授業の内容から実際に学 生の前で発表する
	到達目標	鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼が11分以内で処置出来ること	
9	講義内容	肩関節前方烏口下脱臼①	授業の内容から実際に学 生の前で発表する
	到達目標	診察、整復が出来るようになる	
10	講義内容	肩関節前方烏口下脱臼②	授業の内容から実際に学 生の前で発表する
	到達目標	固定が出来るようになる	
11	講義内容	前腕両骨後方脱臼①	授業の内容から実際に学 生の前で発表する
	到達目標	診察、整復が出来るようになる	
12	講義内容	前腕両骨後方脱臼②	授業の内容から実際に学 生の前で発表する
	到達目標	固定が出来るようになる	
13	講義内容	コーレス骨折①	授業の内容から実際に学 生の前で発表する
	到達目標	診察、整復が出来るようになる	
14	講義内容	コーレス骨折②	授業の内容から実際に学 生の前で発表する
	到達目標	固定が出来るようになる	
15	講義内容	前期試験範囲復習	緊張した状況の中から適切 な処置を行う
	到達目標	前期試験範囲をそれぞれ理解し適切に処置出来ること	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復基礎実習Ⅱ			講師名		中谷 功		
				実務経験		○		
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床							
講義形態	実技	学期	後期	分野		専門分野		
講義目的	財団実技で出題される範囲を理解し、仮想患者と助手を相手に適切な処置が出来ること							
到達目標	財団実技試験に出題される疾患の発生機序・症状・整復・固定・後療法を理解している 臨床の現場を想定した状態で適切な処置が出来ること							
テキスト	柔道整復学 ◎理論編 第7版 ◎実技署 第2版 全国柔道整復学校協会／南江堂 配布プリント							
参考文献								
評価基準	定期試験 80% ブレテスト 20%							
履修上の注意	授業時に配布される資料と教科書を毎度持参すること 必ず白衣とズボンを着用した状態であること							
備考	私服での参加は出席を認めない							

講義計画			成果確認
16	講義内容	上腕骨外科頸骨折	授業の内容から実際に学生の前で発表する
	到達目標	診察、整復が出来るようになる	
17	講義内容	上腕骨骨幹部骨折	授業の内容から実際に学生の前で発表する
	到達目標	固定が出来るようになる	
18	講義内容	第5指中手骨頸部骨折	授業の内容から実際に学生の前で発表する
	到達目標	固定が出来るようになる	
19	講義内容	第2指PIP背側脱臼	授業の内容から実際に学生の前で発表する
	到達目標	固定が出来るようになる	
20	講義内容	肋骨骨折	授業の内容から実際に学生の前で発表する
	到達目標	固定が出来るようになる	
21	講義内容	肩関節腱板損傷	授業の内容から実際に学生の前で発表する
	到達目標	診察、徒手検査が出来るようになる	
22	講義内容	上腕二頭筋長頭腱炎	授業の内容から実際に学生の前で発表する
	到達目標	診察、徒手検査が出来るようになる	
23	講義内容	プレテスト	授業の内容から実際に学生の前で発表する
	到達目標	手指部の骨折、脱臼と肩関節の徒手検査法が出来る	
24	講義内容	下肢肉離れ 大腿部、下腿部	授業の内容から実際に学生の前で発表する
	到達目標	診察、徒手検査が出来るようになる	
25	講義内容	膝関節側副靱帯損傷 MCL、LCL	授業の内容から実際に学生の前で発表する
	到達目標	診察、徒手検査が出来るようになる	
26	講義内容	膝関節十字靱帯損傷 半月板損傷 ACL、PCL、MM、LM	授業の内容から実際に学生の前で発表する
	到達目標	診察、徒手検査が出来るようになる	
27	講義内容	アキレス腱断裂 下腿骨骨幹部骨折	授業の内容から実際に学生の前で発表する
	到達目標	固定が出来るようになる	
28	講義内容	足関節捻挫①	授業の内容から実際に学生の前で発表する
	到達目標	診察、徒手検査、厚紙副子固定が出来るようになる	
29	講義内容	足関節捻挫② テーピング	授業の内容から実際に学生の前で発表する
	到達目標	固定が出来るようになる	
30	講義内容	後期試験範囲復習	緊張した状況の中から適切な処置を行う
	到達目標	後期試験範囲をそれぞれ理解し適切に処置出来ること	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復基礎実習Ⅲ			講師名		木村 優花		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	実技	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	身体の構造を理解したうえで、柔道整復の治療技術である整復や固定を身につける。 柔道整復師として、今後の臨床に役立つ知識・技術を身につける。							
到達目標	身体の構造を理解し、各外傷の状況に応じた整復法・固定法が理解できる。 各包帯技術の説明・実演ができる。							
テキスト	柔道整復学・理論編(南江堂)・包帯固定学(南江堂) 解剖学(医歯薬出版)							
参考文献	プロメテウス(医学書院)・ネッター(南江堂)							
評価基準	実技テスト 80% 小テスト 10% 提出物 10%							
履修上の注意	資料等の配布物と教科書を持参する。							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	身体構造①(骨学の復習テスト①)	小テストにて確認
	到達目標	上肢帯、下肢帯の各名称が理解できる	
2	講義内容	身体構造②	授業中に質疑応答
	到達目標	上肢帯の構造を理解し、説明できる	
3	講義内容	身体構造③	授業中に質疑応答
	到達目標	下肢帯の構造を理解し、説明できる	
4	講義内容	身体構造④(骨学の復習テスト②)	小テストにて確認
	到達目標	頭蓋骨、体幹、前腕～手部、下腿～足部の各名称が理解できる	
5	講義内容	身体構造⑤	授業中に質疑応答
	到達目標	頭蓋骨、前腕～手部の構造を理解し、説明できる	
6	講義内容	身体構造⑥	授業中に質疑応答
	到達目標	体幹、下腿～足部の構造を理解し、説明できる	
7	講義内容	上肢・体幹の外傷	授業中に質疑応答
	到達目標	上肢・体幹の外傷について理解できる	
8	講義内容	デゾー包帯①	授業中に確認
	到達目標	デゾー包帯の適応、走行、目的が理解できる	
9	講義内容	デゾー包帯②	授業中に確認
	到達目標	デゾー包帯の適応、走行、目的が説明できる	
10	講義内容	ヴェルポー包帯①	授業中に確認
	到達目標	ヴェルポー包帯の適応、走行、目的が理解できる	
11	講義内容	ヴェルポー包帯②	授業中に確認
	到達目標	ヴェルポー包帯の適応、走行、目的が説明できる	
12	講義内容	ジュール包帯①	授業中に確認
	到達目標	ジュール包帯の適応、走行、目的が理解できる	
13	講義内容	ジュール包帯②	授業中に確認
	到達目標	ジュール包帯の適応、走行、目的が説明できる	
14	講義内容	包帯固定復習①	授業中に確認
	到達目標	各種包帯の適応、走行、目的が理解できる	
15	講義内容	包帯固定復習②	授業中に確認
	到達目標	各種包帯の適応、走行、目的が説明できる	



対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	柔道整復基礎実習Ⅶ			講師名		中西 正		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	演習	学期	後期		分野	専門分野		
講義目的	運動器リハビリテーションに関する内容を習熟し、理解を深める。							
到達目標	整形外科的徒手検査の実践およびリハビリに関する知識を身に付ける。							
テキスト	リハビリテーション医学 改訂第4版(南江堂) 柔道整復師と機能訓練指導(南江堂)							
参考文献	参考資料をプリントにて随時配布する							
評価基準	筆記試験、実技試験							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	運動器リハビリテーション/骨折	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	
2	講義内容	運動器リハビリテーション/骨折	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	
3	講義内容	運動器リハビリテーション/捻挫	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	
4	講義内容	運動器リハビリテーション/上肢の損傷	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	
5	講義内容	運動器リハビリテーション/上肢の損傷	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	
6	講義内容	運動器リハビリテーション/上肢の損傷	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	
7	講義内容	運動器リハビリテーション/下肢の損傷	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	
8	講義内容	運動器リハビリテーション/下肢の損傷	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	
9	講義内容	運動器リハビリテーション/下肢の損傷	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	
10	講義内容	整形外科的徒手検査 実践（上肢）	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	
11	講義内容	整形外科的徒手検査 実践（上肢）	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	
12	講義内容	整形外科的徒手検査 実践（下肢）	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	
13	講義内容	整形外科的徒手検査 実践（下肢）	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	
14	講義内容	整形外科的徒手検査 実践（体幹）	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	
15	講義内容	整形外科的徒手検査 実践（体幹）	毎時間、授業前に前回の復習を行う
	到達目標	徒手検査の目的、方法を身につける	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	2	単位
科目名	柔道整復総合演習Ⅰ			講師名		青木 孝至		
				実務経験		○		
実務内容	鍼灸院にて柔道整復師、鍼灸師として臨床							
講義形態	講義	学期	後期		分野	専門分野		
講義目的	競技者の身体的特徴や外傷・障害の発生メカニズムを学ぶことで、スポーツ現場における外傷・障害発生の予防を検討する。							
到達目標	外傷・障害に関する理論を理解し、予防に必要な技術を身につける。							
テキスト	競技者の外傷予防／医歯薬出版株式会社							
参考文献								
評価基準	記述式評価試験 100点							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	運動生理学の概要① 運動とエネルギー代謝・骨・筋肉	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	運動生理学の概要を理解する	
2	講義内容	運動生理学の概要② 運動と呼吸・循環・ホルモン	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	運動生理学の概要を理解する	
3	講義内容	競技者の外傷予防概論① 外傷の発生要因	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	外傷の発生要因のメカニズムを知る	
4	講義内容	競技者の外傷予防概論② 外傷の予防対策	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	外傷予防について知識を広げる	
5	講義内容	外傷予防のための実技① 関節緩性とタイトネステスト	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	予防対策が実践できる	
6	講義内容	外傷予防のための実技② アライメント測定	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	予防対策が実践できる	
7	講義内容	外傷予防のための実技③ アイシング方法と実際	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	予防対策が実践できる	
8	講義内容	外傷予防のための実技④ ストレッチングの方法と実際	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	予防対策が実践できる	
9	講義内容	外傷予防のための実技⑤ スポーツマッサージの方法と実際	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	予防対策が実践できる	
10	講義内容	外傷予防のための実技⑥ スポーツテーピングの方法と実際	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	予防対策が実践できる	
11	講義内容	外傷予防のための実技⑦ 筋カトレーニングの方法と実際	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	予防対策が実践できる	
12	講義内容	種目別外傷予防①	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	競技特性を理解し、知識を深める	
13	講義内容	種目別外傷予防②	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	競技特性を理解し、知識を深める	
14	講義内容	種目別外傷予防③	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	競技特性を理解し、知識を深める	
15	講義内容	成長期および高齢者の外傷予防	毎時限冒頭フィードバックを実施する
	到達目標	基本的な内容から応用につなげることができる	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	応用体験実習			講師名		田中雅博／辻井宏昭		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	実習	学期	前期	分野		専門分野		
講義目的	治療や患者の対応を直接経験することで、教室で学んだ理論を検証する能力を身につける。 接骨院全体の運営を経験することで、知的好奇心の向上を期する。 インフォームドコンセントと患者同意の反応と理解。							
到達目標	安全な領域で患者への施術、医療材料、医療機器の対応ができる。 躁動的な患者の対応が可能で、患者誘導と支援に最大の配慮ができる。							
テキスト								
参考文献								
評価基準	実習簿の内容評価 50% 症例プレゼンテーション 50%							
履修上の注意	100%の出席を要する							
備考	履修内容:安全なる領域で患者へ直接施術を行う。安全な領域で患者への医療材料や医療機器を 実践できる。指導者と患者の対応を観察し、症例としてまとめ、実習簿に記録、記載することが できる。							

講義計画			成果確認
1	講義内容	指導者からの指示を受けずに、医療機器材料等の準備・片付けの実践①	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	
2	講義内容	指導者からの指示を受けずに、医療機器材料等の準備・片付けの実践②	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	
3	講義内容	安全な領域での患者への処置、施術①	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	
4	講義内容	安全な領域での患者への処置、施術②	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	
5	講義内容	インフォームドコンセントと患者同意の実践①	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	
6	講義内容	インフォームドコンセントと患者同意の実践②	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	
7	講義内容	医療介護融合を観点においた患者への対応①	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	
8	講義内容	医療介護融合を観点においた患者への対応②	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	
9	講義内容	多職種連携の実践①	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	
10	講義内容	多職種連携の実践②	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	
11	講義内容	施術録への記載方法	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	
12	講義内容	発表のプレゼンテーション手法①	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	
13	講義内容	発表のプレゼンテーション手法①	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	
14	講義内容	指導管理と経過観察の留意点①	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	
15	講義内容	指導管理と経過観察の留意点②	実習記録簿およびフィードバック面談
	到達目標	講義内容のとおり	

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2	年	単位数	1	単位
科目名	臨床評価実習			講師名		田中雅博／辻井宏昭		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	実習	学期	後期		分野	専門分野		
講義目的	これまで得た座学と実習の知識と技能を実践でき理解できている。 患者の対応に必要な基本知識と技能を実践できる。							
到達目標	臨床実習で学んだ経験や知識を患者へ医療サービスとして具体的に提供できる。 患者安全医療安全など、リスクマネジメントが徹底できる。 到達までの行動を評価し、評価をもとにしたフィードバックを行う。							
テキスト								
参考文献								
評価基準	実習簿の内容評価 50% 終了後口述面接 50%							
履修上の注意	100%の出席を要する							
備考	履修内容: 指示がなくてもせkkツイン施術開始のハード、ソフトの準備がでいる。指示がなくても、 施術開始目のハード、ソフトのリスクマネジメントの徹底ができる。 指示を受けえて、安全な領域で患者対応の実践ができる。							

講義計画			成果確認
1	講義内容	開院前の準備と行動	実習簿とフィードバック
	到達目標		
2	講義内容	助手と受付との連絡調整および打ち合わせ	実習簿とフィードバック
	到達目標		
3	講義内容	インフォームドコンセントと患者同意の実践確認・徹底	実習簿とフィードバック
	到達目標		
4	講義内容	再診患者誘導と初診患者誘導の確認	実習簿とフィードバック
	到達目標		
5	講義内容	再診患者の経過聴取、初診患者の診察手法	実習簿とフィードバック
	到達目標		
6	講義内容	安全領域による鑑別検査	実習簿とフィードバック
	到達目標		
7	講義内容	医用画像観察装置等による客観的評価手法	実習簿とフィードバック
	到達目標		
8	講義内容	検査結果と根拠と傷病名告知	実習簿とフィードバック
	到達目標		
9	講義内容	救急を要する患者への対応と行動	実習簿とフィードバック
	到達目標		
10	講義内容	医接連携などを必要とする対応、手続き	実習簿とフィードバック
	到達目標		
11	講義内容	多職種連携の実践と患者へのアドバイス	実習簿とフィードバック
	到達目標		
12	講義内容	傷病に対する処置手法	実習簿とフィードバック
	到達目標		
13	講義内容	安全な領域での後療手技や回復療法の実践	実習簿とフィードバック
	到達目標		
14	講義内容	次回受診までの指導管理の徹底	実習簿とフィードバック
	到達目標		
15	講義内容	施術録の記載と療養費至急申請書の作成	実習簿とフィードバック
	到達目標		